

在宅医療・介護連携推進事業
認知症の合図市民フォーラム

人と認知症と向き合うために

OWL
NAOTO MIYAZAKI

今日お話しすること

1. はじめに
2. 昔々こんなことが行われていました
3. そもそも認知症とは何か？
4. 人と認知症の理解（オムニバスで理解を深める）
5. まとめ

はじめに

ひとつの自問

- ・ 認知症に関する知識や対応技術よりも、それ以前にもっとすることはないか？
 - ・・・と、いつも自問しながら実践してきました

そして、できればお互いにとって

- いい関係
- 良好な関係
- 質のいい関係
- 感じのいい関係
- 頼りあえる関係
- 笑顔でいられる関係
- 友人のような関係
- 気楽な関係・・・etc

どちらか一方ではなく、お互いに
このような関係や繋がりの中で
暮らしを営めることができれば・・・

『昔々、こんなことをしてきました』 1980年代

『グループホームの取り組み』

1996年代

そもそも 『認知症』とは何か？

グループホームの取り組みの中で
自問自答の繰り返し

そもそも 認知症とは何か？

認知機能とは

記憶の機能

- ・エピソード記憶、意味記憶

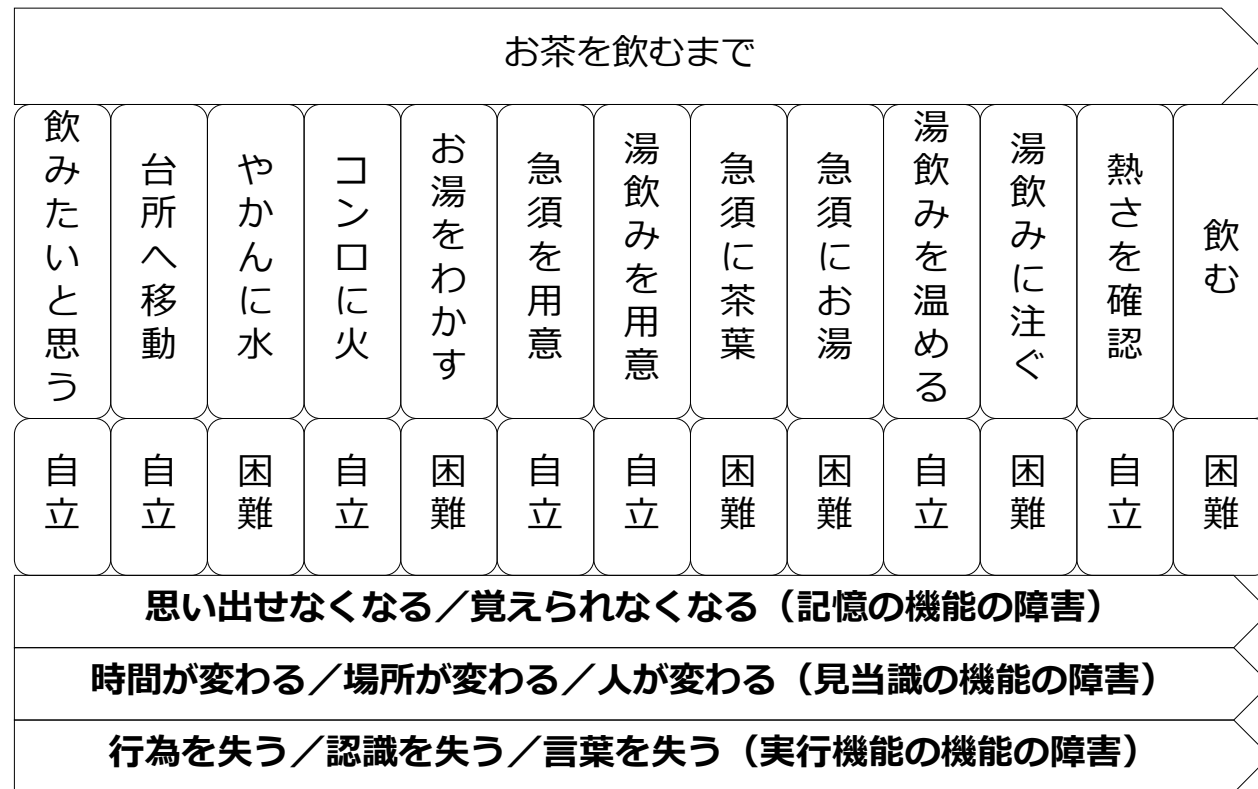
見当識の機能

- ・時間や場所の見当をつける機能
- ・物の名前を見当をつける機能

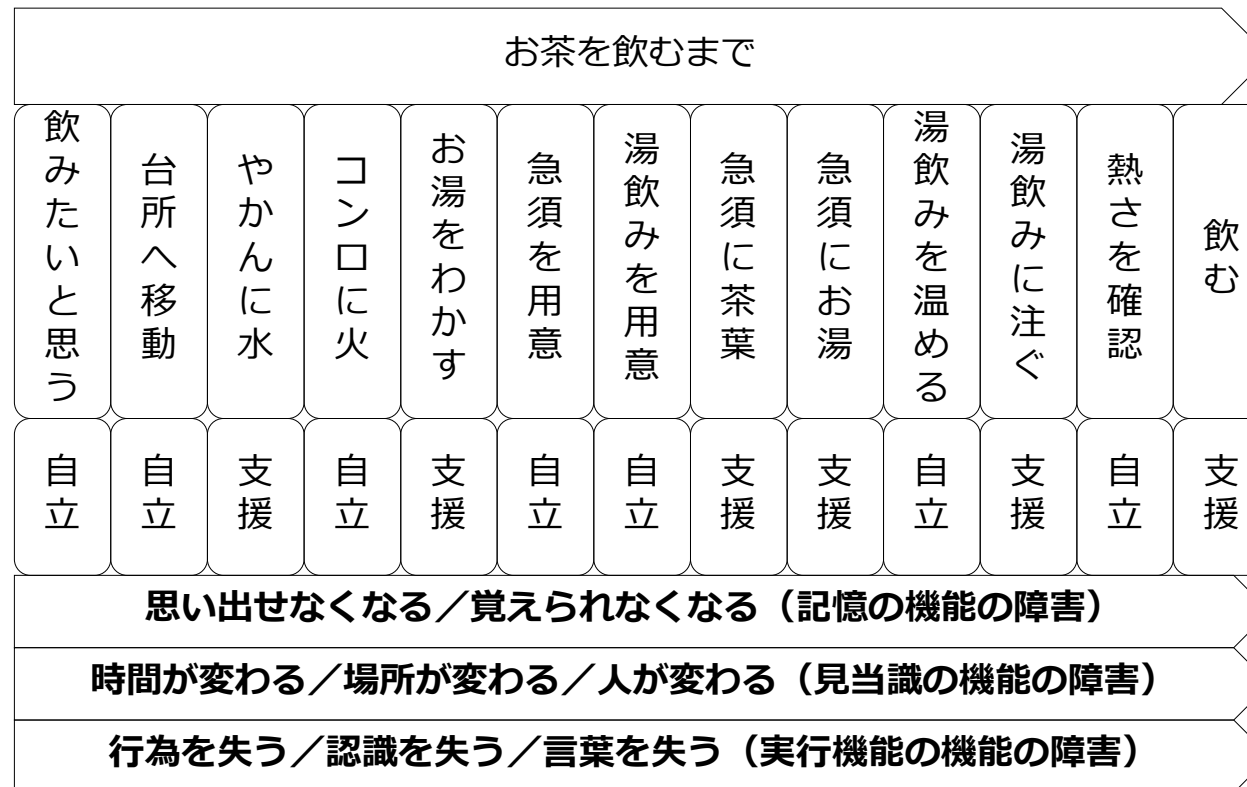
実行機能（行為／認識／言語など）

- ・生活するための行為
（着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等）
- ・言葉で伝えること
- ・字が書くこと
- ・判断をすること
- ・計算をすること
- ・同時に複数の事を行うこと 等々

認知症の状態にある人の日常生活に支障が生じる仕組み



認知症の状態にある人の日常生活への支援



ただし
できること・やれること・感じることは豊かにあります

感情記憶

手続記憶

豊かに存在する

※感情記憶～出来事は忘れますが、その時の感情は残る

例) 優しい声→心地よい

例) 大きな声→不快・怒られた・嫌な気持ち

※手続記憶～身体で覚えた記憶

例) 自転車の乗り方、ジャガイモのむき方など

認知症の状態というのは

加齢又は心身の変化に伴う自然現象によって
生活がうまく具合にいかなくなってゆくことをいうのです

人間が持つ 認知症の状態をケアする ということとは

生活をベースに
どの機能等が抜け落ちることによって
複雑に絡み合いうかくいかないのかを
見極めながら支援してゆくことである

『人と認知症』の理解

グループホームという環境 と 人の理解

『人と認知症の理解』

オムニバスで理解を深める

オムニバスとは

いくつかの独立したストーリーを並べて、全体で一つの作品にしたもの

オムニバス認知症

1. ルームウォーカーに叫ぶお爺さん
2. 夜中に仕事に行くお婆さん
3. ゴミを集めるお爺さん
4. 物干しが娘になるお爺さん
5. ジャガイモが消えるお婆さん
6. ほうきとちりとりお婆さん
7. たらこくちびるお婆さん
8. 狸寝入りお婆さん
9. テーブルを削るお婆さん

まとめ

それぞれのオムニバスストーリーにみられる 6つの共通点

- ①過去の生活の背景（人生）が関係している
- ②常に何かと繋がっている
- ③できること、やりたいことがある
- ④感性は豊かに存在している
- ⑤信頼できる関係を望んでいる
- ⑥彼らは「認知症の人」ではない

**知らないうちに
その人たちの「認知症」が
どっかに消えてなくなっていることに
気がついた**

認知症の介護の壁

- 解った気にならないこと
- 相手を解ろうとすること
- 答えは一つではないということ



イメージキャラクター もシカくん

伊達市

ありがとうございました

